

【月刊】キリスト教書評誌

本のひろば

February
2021 **2**

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2021年2月1日発行(毎月一回発行)第758号

● 出会い・本・人

身じろぎもせぬほどに 友野富美子

● 特集「古い」について学ぶなら

この三冊! 工藤信夫

● 本・批評と紹介

加藤二三著 だから私は、神を信じる 遠藤龍之介

黒鳥偉作著 病と信仰 阿久戸光晴

加藤常昭著 加藤常昭説教全集35

新約聖書書簡の説教Ⅰ 藤掛順一

勝村弘也著

今さら聞けない!? キリスト教 旧約聖書編 飯謙

金子晴勇著 キリスト教思想史の諸時代Ⅰ 阿部善彦

山口希生著 「神の王国」を求めて 坂野慧吉

岩本遠億著 366日元氣が出る聖書のことば 水谷 潔

大和昌平著 牧師の読み解く般若心経 島田裕巳

ラリー・クラブ著/川島祥子訳

ひとを理解する 岡村直樹

河合裕志著 パウロの言葉100選 申 鉉錫

既刊案内

書店案内

香港の民主化運動と

信教の自由

松谷暉介 編訳

教会にいま何ができるのか？

2020年6月に「香港国家安全維持法」が施行されてから、言論・報道・出版等の「表現の自由」が脅かされている香港で、今後信教の自由はどうなるのか？ 香港の牧師たちの生の声を聴くとともに、「香港牧師ネットワーク」が発表した「香港2020福音宣言」を読み解く、倉田徹氏（立教大学教授）、朝岡勝氏（日本同盟基督教団徳丸町キリスト教会牧師）も執筆。

● A5判・並製・192頁・本体1,800円



日本キリスト教歴史人名事典

鈴木範久 監修 日本キリスト教歴史大事典編集委員会 編

最新の研究成果や新事実を反映した約5150人のキリスト教関係者を網羅。日本キリスト教史研究の里程碑ともいうべき必須の基礎文獻。

好評発売中!

呈・内容見本

● B5判・函入・984頁・本体45,000円



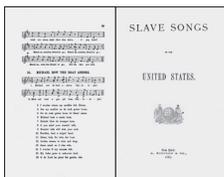
黒人霊歌の即興性

Slave Songs of the United States (1867) を基に

國友淑弘 著

ラーニー・ラッカー氏 (Lanner Lacker, ヨーロッパ・ミズリ代表) 推薦!

「ロスぺル音楽の根幹を知るための最良の二書」



アフリカ系アメリカ人音楽研究における最初の楽譜資料 *Slave Songs of the United States* をもとに、リズム、ハーモニー、メロディの特性、地域差、歴史的流れ等の詳細な研究に加え、黒人霊歌の特徴の一つであり、楽譜化が困難な〈即興性〉の仕組みを明らかにする、本邦初の音楽学的「黒人霊歌」研究。

● A5判・上製・296頁・本体3,800円





身じろぎもせぬほどに

友野富美子

長岡輝子さんの楽屋付きとして一日を過ごしたのは、四半世紀前のことです。両国にあるシアターメ^{カイ}という劇場で「長岡輝子 宮沢賢治を読む」という公演が一日限りで行われました。

当時私は三〇になったばかり。よい役者になりたいよい作品に出会いたいと、芝居のことばかり考えて過ごしていました。そんな私を可愛がってくれた演出家が、「勉強になるから」と長岡さんの楽屋のお世話を命じたのです。

前日に九六歳の誕生日を迎えた長岡さんは、座っているのも大儀なご様子でした。楽屋から舞台への移動もスムーズにはいきません。エレベーターを使い、いったん劇場の外に出て、大道具用の搬入口から舞台監督に抱えられるようにして、長岡さんは文字通り舞台裏に「搬入」されました。それも休み休み、長岡さんのペースに合わせて。

とうにベルは鳴っています。開演時間からすでに一〇分。劇場は満席です。けれど、五分たっても一〇分たっても、客席か

らは物音ひとつしません。私はそつと舞台袖から客席を伺いました。皆、身じろぎせず長岡さんを待っているのです。長岡輝子の朗読を聴きたい、宮沢賢治を味わいたい、その静かな期待だけが劇場を満たしていました。

動くことも難しく見えた長岡さんは、袖から舞台に出たその途端、客席に笑顔を向けながら、中央にしつらえた椅子に向かつて優雅に歩き出しました。満堂の拍手。そして穏やかかつ凛とした『雨ニモマケズ』。

長岡さんを間近に拝見したのはそのとき一度切りです。けれど、牧師としてお仕える今、講壇に向かう私には、あの時の静まり返った客席と、長岡さんの謙遜にして堂々たる佇まいが蘇ります。私は心の帯を締め、十字架を見上げつつ私の主に問います。僕の口を通して語られる言葉は、神の言葉として会衆の皆さんに期待されているでしょうか。聖書の言葉は礼拝堂に屹立しているでしょうか、と。



「老い」について学ぶなら ▼この三冊！

工藤信夫

(くどう・のぶお・精神科医・平安女学院大学名誉教授)

P・トウルニエ著『老いの意味』

——美しい老年のために

ちようどヨベルから出版される本にP・トウルニエの『老いの意味』を紹介している。その内容は、老年期の発達課題とも呼ぶべき老人期のテーマである。先ずトウルニエは私どもが身近に目にする老人の三つのタイプを提示する。【固定型】・【無気力型】そしてもう一つは【冒険型】である。

【固定型】

意志にさえ気が付かなくなっているのです。ただ残るのは、後悔、苦々しさ、頑固といった権力意志を裏返しにしたイメージばかりです。進化する力が無いのですから退化するばかりです。

《硬化：苦渋：閉鎖的性格、これらは未完成な人間のしるしだ》と、デュルクハイムは書いています。

【冒険型】

しかし第三の型の老人もいます。それはこの権力意志の昇華に成功した人の場合です。つまり、本能衝動の他の対象への転換に成功した人です。(中略)生命活動とは単に拡張、攻撃、支配だけではありません。それはまた、愛、受容、交換、伝達でもあるのです。活動期には職業とか社会とか、或いは軍事とか経済とか、さらには知的、文筆的な成功などによって人は力を獲得しています。老年になれば今度は心

アドラーは(フロイトが主張した)

性本能の重要性は否定していませんが、それを人間の精神作用の唯一の原動力と見ることは賛成していません。彼は本能(老年期の生きる力)を「権力意志」と名付けます。人間はそれによって自らを確認し、他人に照らして自分を測り、競争心を持ち、障害を打ち破り、行動によって社会生活に勝利を収めることができるというのです。(中略)(このタイプの人間)《自分の地位にしがみつき》・《職業上の引

情によって、すべての受容によって、あるいは寛大さや無私の心によって、力を示すことができるのです。」「(三四〇—三四二頁)

私はこれを読んで二人の隠退牧師のことを思い起こした。いずれも「生涯現役」と称して九十年代半ばまで教会指導者の地位に留まっていたものの、その手法は第一世代の教会指導者にあるがちな強権主義であり、後継者問題をめぐって教会はほぼ分裂状態、また信徒の実際はA・グリューンが『従順という心の病い』(ヨベル)の中で示唆した従順・無気力型で、とうてい「みんなの教会」でも「地域に開かれた教会」でもないのである。

私はふと思った。

戦後の日本のキリスト教界は伝道、伝道。あるいは聖書知識の取得や神学的研究に力を注ぎながら、肝心のキリ

退を拒み》・《家庭や社会にあつていつまでも指導者になりたがり》(中略)《自分の意見は絶対的なもの》として、《服従され尊敬されるように要求》する人は、自分の限界を認めようとしないう、すなわち、老いのために行動や支配の世界はもはや無力になった今も彼は無意識にその保証を求めます。つまり彼らは過去の栄光を埒も無く物語つてみたり、権威主義の中に閉じこもつたり、若者たちを非難したりするのである。

【無気力型(引きこもり型)】

もう一つの老人の例、それは無気力と無関心に落ち込んだ人ですが、(実は)彼は自分の権力本能を押し込めてしまっているのです。彼が活躍していた頃の職業や、成長した子どもとの教育などの直接的対象に向けていた、この本能のやり場が今はなくなり、もはや何ものにも興味を持たず、自分の権力

スト教的人格形成とその「社会化」である。人間的成長・成熟」というテーマは殆ど等閑視されてきたのではないだろうか。というのも一九七〇年代、日本にライフサイクルなる概念が導き入れられて以来、「アイデンティティ」問題は、臨床精神医学や発達心理学において必要不可欠の要素として認識されてきたにも関わらず、神学校教育にはこうした面への関心は著しく欠けているように思えるからである。(例：E・エリクソンの人間の八つの発達課題)

P・トウルニエ著『生きる意味』

——来日講演集

ところがピレモン書には、パウロの老いの実際を、またヨハネの福音書における死を前にしたイエスのたたずまいには、これらのテーマが見事に描かれているのである。

前者の要点は、捕らわれの身で生ん

だ私の子オネシモ」と、オネシモの負債を私が負う」という表現であり、後者は洗足式に至る記述である。

この捕らわれの身で、私の子オネシモを生んだという表現は、老人期の Generativity (神谷美恵子氏の訳では生殖性と訳されるもので、子孫や自分が造りだしたものを世話し、後世に残すこと) であり、後者はとりなしの祈りである。世に残される者たちへのとりなし、つまり Care の概念である。実際多くの人々は仕事から解放されると、残された能力を何らかの社会活動 (ボランティア精神) によって世に還元しようとする。

しかるにどうだろう。生涯現役」と称するキリスト者の実際は【固定型】であり、後進に道を譲り、育てることも有終の美を飾るべく引退して、道を譲ることでもできず自己顕示欲を昇華できないでいる。

こうした若い人たちへの声かけ・応援という「社会化」こそが、より人間的な社会の実現のために老人に与えられた「社会的使命」であり、トゥルニ

また【引きこもり型】に関して言えば、トゥルニエは「老年期もまた霊的成長の時であり狭い自己愛の世界から無私の愛に成長することができるので」と主張している。

つまり成長から成熟への発展である。言うまでもないことであるが、【固定型】はその人の愛が「利他性」に到達しない自己中心性の「自己愛」に留まっていることを意味する。そして、老人の美しさはその「表情」とりわけ「顔貌」に現れる。私が本書の聖文舎版を紹介するのは表紙のトゥルニエにその美しさを感じるからである。

トゥルニエは「ヨーロッパのデカルト文明は、見えるものを見えないものに優先させ、計量できるものを見えないものに優先させ、存在を存在(あること)の優位に立たせ、ホモ・ファベル(工作人、物・道具を作る)」を「ホ

エが、今こそ「老人の出番」と呼んでいる実際例である。

※引用文中の傍線、括弧書きは筆者によるもの

モ・レリギオシス(宗教的人間)の優位に立たせてきた。これは老年の生活には都合の良い風土である。

今日老人たちは、自分たちが価値を認められておらず、居心地が悪い、また自分たちが役立たずだと思っ苦しいのである。」と論じているが(P・トゥルニエ著『生の冒険』一三八頁)、現代社会はデカルトを選ぶことによって、本来社会の宝とも呼ぶべき老人の存在価値を見失ってしまっているのではないだろうか。

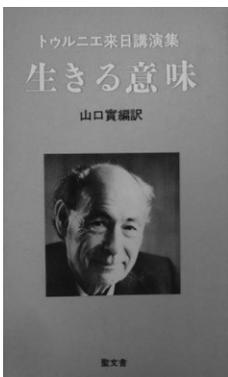
H・ナウエン著『闇への道・光への道』——年齢をかさねること

カトリック司祭H・ナウエンの『闇への道・光への道』には、学校帰りの子どもたちが必ず立ち寄るおばあちゃんが紹介され、この老婆は朝これから職場に向く若い男女に声かけするのを日課としている。

※紹介した本は品切れ、絶版など現在入手しにくい状態です。キリスト教系図書館などのご利用をおすすめします。



『老いの意味』
美しい老年のために
ポール・トゥルニエ：著
山村嘉己：訳
ヨルダン社
1975年刊
四六判404頁
(現在絶版)



『生きる意味』
来日講演集
ポール・トゥルニエ：著
山口 實：編訳
聖文舎
1978年刊
新書110頁
(現在絶版：復刊あり)



『闇への道 光への道』
とし年齢をかさねること
ヘンリ・J.M. ナウエン、
ウォルター・J. ガフニー：著
原 みち子：訳
こぐま社
2000年刊
小B判158頁
1400円(税別)

人生の最善手を求めて……

〔評者〕 遠藤龍之介



だから私は、神を信じる

だから私は、神を信じる
加藤一二三著



加藤先生は私の将棋の恩師です。弟子を採られなかった先生の唯一の弟子と自分では自慢しておりますが、我が家との出会いの頃からお話を始めていこうと思えます。

もう半世紀も前の事です。当時私の父（遠藤周作）が朝日新聞に連載をしており先生が同社の囑託をされていた関係で、文芸の担当者を介して紹介をされたようです。

先生はそのころからキリスト教に興味を抱かれていたようで、ご縁が繋がって入信される事となり確か父が洗礼の代父をやらせて頂いたのではなかったかと思えます。

私はと言えばそのころ中学生になったばかりでしたが、将棋に興味を持ち始めてクラスでは敵無しの状態、強い相手求めて街の将棋道場に通う毎日でした。まあ強いと思っていたのは本人だけで、今振り返ってみればアマチュアの初段あるかないかという所ですから子どもの思い込み

というのは恐ろしいものです。

詳しくは知らないのですが、父がお願いしたのでしよう、ある時から月に一回先生が家に来て下さり将棋の指導をして頂く事になりました。当時A級八段のバリバリ、いつ名人挑戦者になってもおかしくないという状態でしたから今になって考えるとさぞかしご迷惑だったのだろうと思います。父の頼みを中々断ることが出来ずにきつと無理をなさってお引き受けくださったのだらうと思えます。もちろん中学生の子どもにはそんな事は理解できるものではありませんが、突然訪れた幸運が嬉しくて堪らずレッスンの時間は夢の中にいるような気持だった事を今でも鮮明に覚えております。

個人指導は二年間位続きましたが、将棋の基礎的な考え、また本筋とは何かという事をじっくり時間をかけて教

えて頂いたのは私にとって大きな財産となりました。この歳になっても趣味は将棋ですと胸を張って言えるのは本当に先生の御陰であると深く感謝を申し上げたいと思えます。

さて本書はそんな加藤先生が自らの信仰について深く語られたものです。信仰者にとっての神様がその人の年齢や人生の局面において様々な表情を見せてくださる事が、ご自身の体験をもとに生き生きと描かれています。私はサラリーマンで職業が違いますが、神様は人のそれぞれ置かれた状況によって本当に貴重な経験やアドバイスを下さるものなのだなア、とやはり思いますし、改めて六十数年の自分の人生を振り返ってみましても同じような精神的な体験があった事に驚かされる次第です。

ここから先は私の勝手な推測で間違っていたら申し訳な

いのですが、先生は当初、最善手が求められる厳しい勝負の世界の中でより素晴らしい一手へのお導きを求めて入信されたのではないかと思います。然しながら年齢を重ねられるにつれ単に将棋を離れて人生の最善手を求められるようになった、そしてついには神の大きな意思を感じられる段階に到達されたように思えます。

私ももうかなり長い間生きて参りましたが、先生の段階までには到底至っておりません。この御本をこれからの心の拠り所として行きたいと考えております。

（えんどう・りゅうのすけ）株式会社フジテレビジョン代表取締役社長兼COO）

ナウエン・セレクション アダム 神の愛する子

ヘンリ・ナウエン 宮本 憲 訳 堀谷直也 解説



生涯「居場所」を求め続けたナウエン。ハーバード大学教授としての生活に行き詰まった彼は、ラルシュでことばで意思を表現できない青年・アダムと出会い、そのケアに四苦八苦するうちに「居場所」にたどりつく。 四六判・192頁・2200円

極貧と一家離散を経験、結核療養所の絶望の中で出会ったキリスト教。人生を賭けて福音を説き続けた山本将信牧師の渾身のメッセージ

風は思いのままに

聖書黙想31日 山本将信



西片町教会の「月報」の巻頭メッセージ、メール配信した月刊「おとづれ」に掲載されたメッセージより31日分を精選。

赦されて生きる

山本将信説教集 山本将信



半生を振り返り証しする説教「赦されて生きる」のほか、マルコ福音書、主の祈り、種まきのたとえ話の講解説教を収録。 各 四六判 並製・136頁・1,540円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail: eigyoku@bp.uccj.or.jp 《価格10%税込》
<https://bp-uccj.jp>

医療現場で病を担う イエスの探究

〈評者〉阿久戸光晴



病と信仰
病を担うイエスと生きる
黒鳥偉作著



あらゆる特権を投げ捨て、北海道の『地域医療』奉仕に赴かれた黒鳥偉作氏の力作集である。「病を担うイエス」を主軸にまとめた著書であり、2部構成をとる。第1部では第二イザヤが告げた「苦難の僕」と「病を担うイエス」「病を告白したパウロ」との関係を考察し、さらに「塵と灰の中を歩んだヨブ」を振り返り、第2部では氏が尊敬される故平山正実先生の信仰と、先生が共感されたH・ナウエンの信仰を考察した。

私たちはお預かりしている教会員や学生らが病に倒れた時「自分になぜ癒せないのか」との苦悩に陥ることがあり、主イエスならどう対応されたかを問う。しかし第二イザヤが告げる「苦難の僕」は苦難を自らのものと受け止め、苦難を避けず苦難を担う者の姿にこそ神の栄光が顕わされると告白する。著者が引用されるとおり、その姿は「わたし

ける。著者はここで或る患者さんとの素晴らしい出会いを私たちに紹介する。ここで著者は少しもご自分を誇っていないが、読む者は著者の信仰と人格に触れることになる。

さらに著者は病に苦しむ者にとつての「安息日の考察」に入り、「安息日にも人を癒された主イエスを喜ぶ」ことが起きていると見る。ここで私には、ネヘミヤ記8章10節「主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である」が想起起こされた。第1部の最後は「ヨブ」で締めくくられる。著者は「ヨブの苦しみを理解せず、通俗的宗教観で荒々しく語ってしまった3人の友人」のための赦しを神に願ひ、塵と灰という苦難の中で神を求めるヨブに注目する。第1部は、病を担われる方こそ「神とともに歩む創造的人生を歩み、神の大きいなる祝福を受ける方」であり、その方こそ「病の人を下から支える超越者主キリスト」であり、主キリストと結ばれた病の方であるとまとめられる。

第2部では故平山正実先生の信仰に裏打ちされた学問的視点「患者の視点から医療を考える」主題が展開される。医療は今でも「悲しみを避ける」という視点が支配的だが、先生は「悲嘆・苦難の創造的意味」を展開し、「病む者の信頼と癒す者の謙遜によってこそ両者の創造的信頼関係が築かれ治療が達成される」と主張された。また先生は診療

たちの患いを負い、わたしたちの病を担った」(マタイ8:17)イエスの生そのものであった。周りの人々は苦しんでいる人を「神に見捨てられた人」と見るが、第二イザヤは「そのような者こそ神の人へのとりなしを引き出し、そこに神の栄光が顕わされる」と捉え、そのことはやがて主イエスにおいて受肉される。ここで苦難の意味が劇的に変わる。すなわち苦難は神の罰ではなく、この地上のすべての者の痛みを引き受ける愛のわざになる。病を誠実に苦しむ方こそ、神に愛され恵みを受けるに相応しい癒し人である。

次に「自分の身に『トゲ』があり、『弱さを誇る』」(IIコリント12:7-9)とまで告白したパウロである。その論拠を著者は「パウロの背後に『病を担われるイエス』が見られ、パウロ自身イエスの十字架を受け入れたから」と見ている。つまり病の苦しみが十字架の主と私たちを結び付室を祈りの場であると捉え「見捨てられ感」をお持ちの方に寄り添われた。先生の最後の問題提起の本質は「死者の救い」であったと著者は言う。著者によれば、それは神の領域ゆえ慎重な考察が求められるが、主と出会えず受洗せず亡くなられた方や自死者などの救いを真摯に祈られたゆえの課題であった。すなわち主は死者との和解・その救いのため陰府に降られたと受け止め、ここに神の究極の御心があると先生と著者は告白する。最後に先生が尊敬されたナウエンの臨死体験と信仰を採り上げる。特にナウエンは老いの意味を「生きる意味が徐々に明らかになって行く恩寵の過程」と捉えたと見る。

一読して私は、本書があのコロナイ書1章24節「キリストの苦しみの欠けたところを身をもって満たす」の意味を明らかにしたと受け止める(私たちが安易に病を癒せない意味もここにある)。著者は平山先生への深い敬服のもと病の人々と共生することをおし、「病に寄り添うキリスト」の存在を明らかにした。本書を広く、特にコロナ禍等で身近に病の方がおられる方々に「一読いただくことを薦めたい。

(あくど・みつはる 福岡女学院大学学長)

(四六判・二四一頁・本体一三〇〇円+税 日本キリスト教団出版局)

若い日の説教と
隠退後の説教を収録

〔評者〕 藤掛順一



加藤常昭説教全集 35
新約聖書書簡の説教 1
加藤常昭著



『新約聖書書簡の説教1』である本書には、ローマの信徒への手紙から九篇、コリントの信徒への手紙二から三篇の説教が収められている。多くは、加藤常昭先生が鎌倉雪ノ下教会の牧師を辞任されてから、さまざまな教会の伝道礼拝に招かれて語られた説教であるが、主任牧師不在の時期に横浜指路教会で語られた説教も三篇入っている。新たな牧師（評者）の招聘が決議された翌週に、「これは新しくこの教会に遣わされるキリストの大使、キリストの全権大使を迎える決心をしたということでありませう」と、牧師を迎えることの意味を語ってくださった。これは書評を引き受けないわけにはいかない。

本書が大変興味深いのは、そのような比較的最近の説教だけでなく、鎌倉雪ノ下教会に着任した直後の説教も何篇が含まれていることである。本書に収められている内、最

も最近の説教は二〇一九年十月に語られたものだが、最も古いものは一九六九年十一月である。そこには五十年の隔りがある。加藤常昭先生の五十年前と現在の説教を読み比べることができる本書は、「加藤常昭研究」においても重要な資料だと言えるだろう。

五十年前と現在の説教を読み比べると、もちろんさまざまな違いが感じられる。しかしその違いは基本的には、置かれていた立場や状況の違いによることである。一つの教会の責任を負う牧師の立場を離れ、いろいろな教会において伝道の応援のために語った説教と、四十代始めの牧師として、着任したばかりの教会において、その教会の課題と取り組みつつ語った説教との違いである。「あとがき」に語られているように、加藤先生着任当時の鎌倉雪ノ下教会は、分裂による混乱と痛みの中にあつた。加えて、教授を

務めておられた東京神学大学において、そして日本基督教団において「紛争」が起こった。それらの深い苦悩の中で先生は「うつ病」と診断されるまでになった。「説教者の人生で最も深い悩みの時でした」とある。その苦悩の中でコリントの信徒への手紙二の講解説教を語ることに、「四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず」と語るパウロの手紙が、加藤先生自身に真実な慰めと癒しを与え、鎌倉雪ノ下教会のその後の発展の礎が据えられたのである。それらの説教の迫力に触れることができることが本書の最大の魅力である。

聖書の言葉、キリストの福音に組み込まれ、包み込まれ、巻き込まれて生かされている中で語られた、まことに自由な、説教の言葉である。五十年前の苦悩の中でも、牧師を

隠退し、高齢となつて多くの病を負い、同労者であり最愛の妻であつたさゆり先生を喪つた悲しみの中にあられる現在もそれは全く変わらぬ。我々後進の者はこのことをこそ学び、受け継ぐべきだろう。キリストの福音の出来事にほんとうに包み込まれて生きるなら、我々も同じ言葉を語っていくことができるはずである。

（ふじかけ・じゅんいち）日本基督教団横浜指路教会牧師
（四六判・四三〇頁・本体三七〇〇円＋税・教文館）



CATS
日本キリスト教会
大信仰問答

〈ビジュアル版〉

日本キリスト教会*著



日本で書かれた
「信仰問答」!

「読みやすく、楽しく手に取れるように」と企画されたカテキズム。写真、絵画、イラスト満載。総ルビ、オールカラー。

A5判変型判

定価【本体 1,800 + 税】円
ISBN9 78-4-86325-129-8



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
http://www.ichibaku.co.jp
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

知的関心に応える書

〈評者〉飯 謙



ウイリアムス神学館叢書IV
今さら聞けない!?
キリスト教
旧約聖書編
Shiro Kawanami
勝村弘也著
勝村弘也著



私たちが旧約テキストへと誘う良質な書が勝村弘也氏により出版された。共に喜び合いたい。本書の出発点は信徒向けの講座とのことだが、そこからイメージされる平易さ、平板さはなく、内容はむしろ知的関心に応える骨太なものである。ぜひ手に取って一読されるようお勧めしたい。

旧約学者としての勝村氏は早くから物語批評や構造主義的解釈、あるいは文芸学からのテキスト・アプローチを学際的に手がけてきた、この分野の草分けである。本書ではそれらの専門知識が十分に咀嚼、紹介されている。マックス・ウエーバーによる社会学の視点(三五―三八頁)、アクセル・オルリク(四三―四七頁)やアラン・ダンダス(六七頁)の物語論からの分析法、折口信夫の民俗学をテキスト解釈に応用する手がかり(八三―八四頁)等、あげれば切りがない。読者は著者の幅広い知見から聖書の切り口の豊

かさを学べると思う。

本書は五章からなる。第一章「旧約の原典をめぐって」では、旧約聖書の構成から、中心の問題を扱う。勝村氏は、多くの旧約学者が中心論争で、神、律法、歴史といった、「宗教的」ととれるテーマに拘泥し、環境問題を始めとする現代の諸課題を置き去りにしてきたと指摘し、本書ではそれらを反映させるよう努めたと述べる(二九頁)。読者は、本文中で語られるヘイトスピーチ(八七頁)や原発事故(二〇三頁)、先端産業の陥穽(二〇七頁以下)等に関する叙述を見て、著者の問題意識と向き合い、旧約から現代を見つめる思索のコードを考えさせられるだろう。

第二章「創世記の父祖物語を読む」では、創世記二―二五章のアブラハム物語を手がかりに、ヤコブや士師記の伝承、さらにはオウイデウス、グリム、風土記といったとば」が取り上げられている。第四章の雅歌の研究史や図像学的な議論、第五章のコヘレトの論敵に関する仮説提示などは読み手の解釈に斬新なヒントを与えることだろう。今回取り上げられているのはいずれも著者が翻訳や論稿、注解で詳述し、高い評価を得てきたテキストである。そう考えると、なぜ本書に勝村氏がトップランナーである箴言やヨブ記がないのだろうかと残念な気もする。講座の時間や紙数の制限などがあつてのことと推察するが、他日、この書の増補版が世に出されることを願ってやまない。

(いい・けん) 神戸女学院大学教授・院長

(A5判・二三〇頁・本体一七〇〇円+税・教文館)

東西の古典に言及し、論述を進める。土地はもたないが、しかし神と同道する移牧民が、社会正義や隣人愛の認識と出会う道筋への覚知が意図されていると感じる。

第三章「詩篇」では、詩篇の各作品が古代共同体でどのように歌われたと思われるか(よく分からない、ということではあるのだが)を述べ、解釈の指標となった並行法や形式的な特徴(類型)について紹介する。これを理解するには一定程度の知識を前提とするが、説明は丁寧になされている。上で述べたように、本書は信徒向けになされた講座が元にあるわけであるが、詩篇と死海写本との関わり、頌栄の位置づけといった叙述の内容からは、その参加者がよく聖書を読み抜いてきた人なのだと思像させられた。

第四章では「雅歌の世界」、第五章では「コヘレトのこ



日本キリスト教歴史人名事典

鈴木範久 監修 日本キリスト教歴史大事典編集委員会 編 呈・内容見本

最新の研究成果や新事実を反映した約5150人のキリスト教関係者を網羅。日本キリスト教史研究の里程碑ともいえるべき必須の基礎文献。

好評発売中

●B5判・函入・984頁・本体45,000円

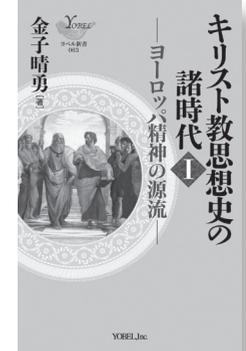


教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
☎03-3561-5549 FAX 03-5250-5107

コンパクトなサイズで 充実のシリーズに期待

〈評者〉
阿部善彦



キリスト教思想史の
諸時代Ⅰ
ヨーロッパ精神の源流
金子晴勇著



本書は『キリスト教思想史の諸時代』（全七巻）の第一巻である。順次刊行予定の第二巻以降では、さらに、アウグスティヌス、中世思想、エラスムス、ルター、宗教改革と近代思想、現代思想に向けて展開され全七巻をなす。第一巻「あとがき」には、著者は、本格的なキリスト教思想史の著述を完成させようと長く取り組み、いくつかの断念された計画を経て今回実現に至ったとある。本シリーズは熟成の時を経て誕生したものであり、著者はその実りを惜しみなく読者にささげている。

著者は『ルターの人間学』（創文社）で日本学士院賞をうけた。著者の根本的な問題意識には人間への問いがあり、思想史研究を通じて人間学を発展させてきた。それが今回本書「序論 思想史は人間学の宝庫である」で明確にされ、シリーズ全体を方向づける。著者の人間への問いは今日的

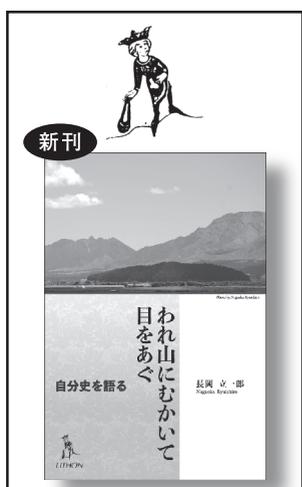
葉が内在する」とあり、著者はこうした人間の「霊」の次元に注目して人間学を展開し、アウグスティヌスやルター、エラスムスでは愛、信仰、恩寵、自由意志の問題に、またドイツ神秘思想では「根底」の問題に、現代的課題では対話や人格の問題に取り組んだ。

人間の「霊」の次元つまり「霊性」は、キリスト教によって主題化された以上、キリスト教思想史を通じて研究されるが、他方、人間に共通のものとして広く思想、文化、芸術、文学に表出するので、そこに「霊性の証言」が見出される。それゆえ本書では第一章で古典文化とキリスト教、第二章でギリシア哲学を述べた後、第三章と第四章でオイディプス王やソクラテスにおける古典文学のダイモーンが論じられる。そして本書の全体構造上、折り返し地点とな

状況に根ざしており、だからこそ思想的に展開される。近代的自我は「個我」であり、その確立は同時に、人間をとりまく全方位の関係性（つながりや意味）の破壊、つまり、人間の神との関係（宗教・信仰）、被造的世界との関係（自然・生命）、他者との関係（社会・共生）、自己との関係（人格・良心）の断絶による、連鎖的な自己崩壊を招き、ニヒリズムに至った。そこで登場した現代の人間学も人間像の焦点を結ぶ新たな中心点を定めえなかった。著者は思想史的にそのプロセスを遡り、エラスムスにおいて「霊・魂・身体」の人間学的三分（教父オリゲネスに由来する）を見出す。それはルターにも共通し「霊は人間の最高、最深、最貴の部分であり、人間はこれにより理解しがたく、目に見えない永遠の事物を把握することができる。そして短くいえば、それは家であり、そこに信仰と神の言

る第五章、第六章では、聖書における「霊」と、「霊」の次元での神の「聖」なるものとしてのあらわれが述べられ、第七章では本書に通底する「霊と真理」（ヨハ4・23）に沿って「霊」の次元でのイエスとの交わりが述べられ、第八章ではギリシア的ダイモーンが再度、聖書のサタンとの関係から論じられ、第九章ではギリシア哲学が教父思想の観点から再考され、第十章で古典文化とキリスト教が続刊に向けて再論される。各章に付せられたコラム「談話室」は著者の仕事の舞台裏をのぞかせる。コンパクトなサイズで充実の内容であり多くの読者をえて欲しい。

（あべ・よしひこ 立教大学准教授）
（新書判・二六四頁・本体二二〇〇円＋税・ヨベル）



われ山にむかいて 目をあぐ 自分史を語る

長岡 立一郎 著

●46判並製 本体1,800円＋税

わが国屈指の名家である細川家に直接つながる長岡家という出自、高校時代の学校のチャプレンの推めで神学校に入学、牧師としての歩みを綴った自分史。著者が教会の牧師として、熊本の人として、また学校人として、その折々に自分の仕事の意味をその時代背景の中で考え整理した論文「戦後の日本福音ルーテル教会史と本郷教会の歩み」、「熊本洋学校と熊本バンド」、「創立百八年目を迎えた九州学院」の三編を収録。更に九州学院の高校生に向けて朝の礼拝でキリスト教の中味をやさしく語りかけた小説教二十編を収録。

ISBN978-4-86376-085-1

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

福音に生き 実行していくために

〈評者〉
坂野慧吉



「神の王国」を求めて
近代以降の研究史
山口希生著



「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」(マルコ1章15節)

私は、「このみことばは、分かっている」と思っていた。でも、この本を読んで、「自分は良く分かっていたいなかった」と思った。この本を読むことによって「神の王国」がイエスの福音の中心なのだと言われ、納得させられました。

第一部で著者は、イエスが語った良き知らせ、福音を一言で要約すれば、「神の王国の到来」と語っています。そしてこの本のテーマと構成を最初に提示しています。「神の王国はどのように地上に実現するのか、という問いは非常に重大な今日の意味を帯びています」と研究者だけではなく、教会と私たちにとっても重大な問題なのだと言います。第二部では「神の王国」に取り組んだ古典的研究を紹介しています。一九世紀の「神の王国」論争、「神の王国」

フィット「神の王国」とヘブライ人への手紙」、リチャード・ボウカム「神の王国」とヨハネ黙示録を解説します。万物の刷新というテーマは、この本のクライマックスだと思われれます。

今、世界で、そして日本で多くの牧師、信徒に読まれているN・T・ライトが二回登場します。この本を学ぶことによって、ライトがどうして「神の王国」を論じているのか、どういう立場なのか、そして現在の教会に何を語ろうとしているのかを知ることができます。突然ライトが登場したわけではなく、「神の王国」研究史の中で位置づけられることによって、健全な読み方ができるのではないかと思っています。ライトの主張に賛同している人も、疑問を感じている人も、「歴史」を踏まえることによって、建設的な

「神の支配」さらに、イエスは終末的預言者であったと主張するアルベルト・シユヴァイツァー。そしてブルトマン、クルマンの主張をまとめています。第三部では「神の王国」とイスラエルの刷新というテーマで、C・H・ドッドをはじめとする研究者たちを紹介しています。特に12章では「捕囚の終わり」と「神の王国」という題で、N・T・ライトを取り上げ、彼が「四福音書を旧約聖書のストーリーのクライマックス」として読むことを提唱していると紹介しています。「捕囚はいつ終わるのか」という興味深い問題も取り上げています。第四部「神の王国のすがた」では「神の王国と教会」「神の王国と黙示文学」「神の王国と知恵文学」「神の王国と社会学」など神の王国に関わる多方面の問題が紹介されます。第五部では、「神の王国と万物の刷新」というテーマで、N・T・ライト「神の王国」とパウロ書簡、モー

議論ができるのではないのでしょうか。著者の理解に賛成するか、反対するかは、この本をしっかり読んでからにしてほしい、と思います。

いずれの立場を取るにせよ、「日本の教会」が今、「神の国(王国)の福音」とは何なのか、なぜイエスは十字架に架けられたのかをもう一度学ぶことにより、刷新されて福音に生き、福音を宣教し、福音によって世を改革して行く使命を新たに自覚し、実行して行くために、「一石を投じた」書物と言えるのではないのでしょうか。

(さかの・けいきち 浦和福音自由教会牧師)
(四六判・二五六頁・本体一七〇〇円＋税・ヨベル)



キリスト教書総目録 2021年版

宗教と疫病 巻頭エッセイ 月本昭男氏 野々瀬浩司氏

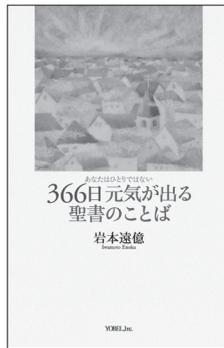
総記年鑑 辞(事)典 図説年表/全集(著作集) 叢書 講座/聖書/神学/宗教学 思想 倫理/伝記/ライオン/信仰入門書 人生論 説教集/文学 小説 評論/エッセイ 詩 劇/音楽 美術 建築/教育 保育 心理 社会福祉/児童 絵本/讃美歌 式文/DVD CD カセット ビデオ/キリスト教関連雑誌 新聞 書名索引/著者索引/掲載出版社名簿

■ A5判 一般頒布1冊286円＋税 送品手数料200円
■ お近くの書店様でお求めください。

キリスト教書総目録刊行会
〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24 トーハンビル内
TEL.03-3266-9521

366日を共に歩む級友 戦友、通院仲間

〈評者〉水谷 潔



366日元気が出る
聖書のことば
岩本遠徳

366日元気が出る
聖書のことば
あなたはひとりではない
岩本遠徳著



著者が18年間、毎日配信し続けてきたメールマガジンから、366日分をセレクトしたものだ。発売一か月も経ない内に在庫僅少となり、重刷になるという。なぜ、多くの読者を惹きつけるのだろうか。福音書風に記す。

本著を誰にたてよう。聖書から真理を教えてください。教師にたてようか。いや、そうではない。本著は、教師から共に学ぶ同級生にたてられる。読者と共に机を並べ、教師の声に耳を傾ける。その友は、教科書を忘れてしまった読者に、自らの机を寄せ、机を一つにし、共に一冊の教科書を読む。友人は学力優秀なのだが、偉ぶったところは微塵もない。上から目線も、教えてやるモードも皆無だ。対等に親しく付き合ってくれる。自分が学んだことを、愛をもって分かち合ってくれるだけでなく、自分の過去の不正解やそこから正解に至った試行錯誤まで、正直に教えて

くれるのだ。この優等生も、自分とさほど変わりはないと分かり、学ぶ意欲が湧いてくる。これなら、授業が苦痛で、学習意欲も学力も、もう一つという読者もやる気スイッチが入る。まさに「元気が出る級友」だ。

本著を誰にたてよう。選手を訓練し育て、適材適所で活躍させられる監督・コーチにたてようか。いや、いや、本著は、監督コーチの下で、共に訓練を受けて、成長するチームメイトにたてられる。つまり、同じチームに属し、共に勝利を目指す仲間なのだ。友は読者と共に汗を流す。練習の厳しさも成長の喜びも一緒だ。敗戦のくやしさも勝利の喜びも共有してくれる。読者は自分が個人競技者ではないことを悟る。本著を通じて、同じキリストにあるチームメイトに出会うのだ。世に遣わされる読者にとって、その戦いは厳しく、キリストにある勝利は決して容易ではな

い。苦戦しがちな読者には、共に戦おうと励まし、戦力不足を実感する者には、徹底して恵みを示し応援してくれる。それを受けて、共に勝利を目指すのだ。この友がいれば、活躍と勝利は夢ではない。何と「頼もしい戦友」だろうか。本著を誰にたてよう。病める時、痛みを覚える時、訪ねれば適切な診断と治療を与え、健康生活を応援してくれる医師にたてようか。いや、いや、医師ではない。本著は、同じ病と痛みを担いながら、病院の待合室で出会った通院仲間にとえられよう。友は、自分の病や怪我について正直に語る。現在の罪深さ、弱さ、愚かさ、そして、過去の過ちや挫折を話してくれる。それらは、読者と共通したもののばかりだ。友は読者の病も怪我也、それに伴う痛みも知っている。しかも、当事者として経験的に知ってくれ

ているのが、ありがたい。自己開示には相互性がある。相手が心開けば、こちらも心の扉が自然に開く。読者は、かたくなであつた心を開き、自らの弱さ、愚かさ、失敗と挫折を見せる。それは、神に對しての自己開示となっていく。神はそこに、福音の光による治療を施し、読者の健康を応援する。この友は、傷の舐め合いも鎮痛剤も与えない。治療拒否をしかねない読者に、自分を大切にしよう愛をもって諭し、読者を健やかな歩みへと導いてくれる。何と「ありがたい通院仲間」だろうか。本著は「366日を共に歩む級友、戦友、通院仲間」である。この友を得て、日々を歩むことをお勧めしたい。（みずたに・きよし）春日井聖書教会協力牧師、キリスト教性教育研究会会長

(A5判変型・三四四頁・本体一八〇〇円＋税・ヨベル)

神学ダイジェスト129号

急速な変化を遂げる現代社会。その中にある、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

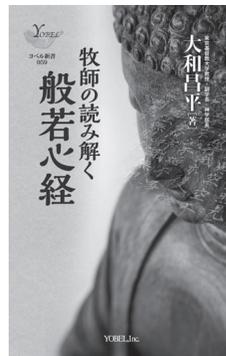
2020年12月発行
A5版128頁
定価640円(税込)

特集 若者と共に歩む教会
真のシノダリティを目指したシノドス 勝谷太治
若者シノドスと使徒的勧告「キリストは生きています」 A. スバダロ
霊的識別「『キリストは生きています』より」 D. ファラレス
若者の参加に基づく青少年神学 B. レエツベン他
教会の決定に関する若者の参加 P. M. トーマス他
働く学校「イエズス会による学校モデル J. パーケス
●連載(霊性心理) 私は思ったより大丈夫 ホン・ソンナム
●COVID-19危機関連として「パンデミックで最も苦し
むのは誰か」「治療配分に関するカトリック的指針」の2本。
●その他「女性助祭職のもたらす変化」「新約聖書は
「同性愛」を禁じているのか」「朝鮮半島南北教会の交流」

上智大学神学会
神学ダイジェスト編集委員会
東京都練馬区上石神井4-32-11
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

般若心経は日本人のこころを よみ解ってきた

〈評者〉島田裕巳



牧師の読み解く
般若心経
大和昌平著



仏典の数は膨大で、量が多いものが少なくない。そのなかで、般若心経は異色の仏典でもある。なにしろ二六二文字しかないからだ。しかも、一般の仏典は「如是我聞（私は釈迦の説法を次のように聞いた）」ではじまるが、般若心経にはそれが無い。

般若心経のなかに出てくる「色即是空 空即是色」の文句は人口に膾炙している。多くの人は、般若心経と聞いて、これを思い浮かべる。あらゆるものは空である。そこにこそ仏教の本質があると、日本人は考えてきた。

その般若心経をキリスト教プロテストメントの牧師が「読み解く」というのは非常に興味深い試みである。しかも著者は、牧師になると同時に、佛教学の仏教学科で仏教を学んでいる。生半かな態度で般若心経と相対しているわけではないのである。

のパーセント程度にとどまっている。

一方、同じ外来の宗教である仏教は、日本での歴史はキリスト教より一〇〇〇年長いという点はあるものの、すっかり社会に定着している。どうしてそこに差が生まれたのか。それを理解できなければ、牧師として日本人に福音を伝えることは難しい。

それだけではない。著者は、土着の神道とともに仏教が根づいた日本の社会に生まれ、そこで生きてきた以上、直接間接に仏教の影響を受けている。それは、このころのありように多大な影響を与えてきたであろう。

そうしたところを持ちながら、キリスト教を受け入れるとはいかなることなのか。また、本当にそれは可能なことなのか。著者が神学校の卒論で、「聖書における心の概念」というテーマを選んだ背景には、そうしたことがあるはずだ。日本人のこころについて考えるには、こころのあり方を問題にする般若心経ほど格好のテキストはない。

しかし、神という究極の有から出発するキリスト教と、すべてを空としてとらえるところから出発する仏教とは根本的に対立する。その対立をどう止揚していくのか。本書は、その難問に対する著者の格闘の軌跡であるとも言える。そこから見えてくるのは、一方では同じ宗教としてのキ

著者は、牧師として仏典を解説していく試みについて、「私はキリスト教の牧師としての確信は決して譲ることなく、般若心経の本文を尊敬をこめて読み解いてきた」と述べている。

キリスト教の教えと仏教の教えは根本的に異なるものであり、両者は対立する。はっきりしているのは、キリスト教徒でありながら、仏教徒にはなれないことである。

では、著者はどのような姿勢で臨んでいるのだろうか。また、なぜ牧師でありながら、仏教を学び、般若心経を読み解いていく必要があるのだろうか。

おそらくそこには、日本という社会においてキリスト教の占める位置が関係しているであろう。日本はキリスト教国ではない。キリスト教が取り入れられて五〇〇年近くの歳月が流れたものの、信者の数は決して多くはない。人口

リスト教と仏教との共通性である。しかし同時に、もう一方では、両者の根本的な異質性が浮かび上がってくる。

その異質性をいかに乗り越えるのか。著者が空を説く般若心経を読み解いてたどり着いたのは、パウロのこころのありようだった。パウロはキリストと出会うことで、信仰の本質を知り、自己という枠を乗り越えていく道を見出した。それこそが空ではないか。著者は、そう語りかけているように思える。

（しまだ・ひろみ＝宗教学者、作家）

（新書判・三二二頁・本体一〇〇〇円＋税・ヨベル）

長田栄一著 *絶賛発売中*

旧約聖書の世界

そのゆたかなメッセージに聴く

旧約聖書の世界
そのゆたかなメッセージに聴く
長田栄一著

神と真つ向正面から向
きあい、生き抜いていっ
た人びとの記録・その
聖書に描かれたゆたか
な人生を生きた指針に
したのとは？

四六判・376頁
本体1,800円
ISBN978-4-909871-30-5

ヨベル YOBEL Inc.
お問い合わせ: info@yobel.co.jp
情報: <http://www.yobel.co.jp>

心理カウンセリングに 有効なアプローチを提供

〈評者〉 岡村直樹



ひとを理解する
なぜ、ひとは、
関係を熱望するのか
ラリー・クラブ著
川島祥子訳



「カウンセリングのアプローチが聖書的であるというのはどういう意味であろうか。」心理的な課題で悩む人の多い現代社会において、これはキリスト教会が避けて通ることのできない非常に重要な神学的問いである。本書は、心理学者でカウンセラーでもあるLarry Crabbによって一九八七年に出版され、二〇一三年に改定されたUnderstanding Peopleの翻訳書である。

Crabbはまず、キリスト教的であると言われるカウンセリングの方法の多様性と、そこにある曖昧さを指摘する。聖書に反しなければ聖書的なのか。または聖書的な要素を少しでも盛り込めば、それは聖書的なカウンセリングであると言えるのかと問いかける。加えて心理的問題も含む人間のすべての課題を、聖書の積義のみで解決することができるという教えに対しても疑問を呈する。Crabbは聖

書積義の価値を認めつつも、そのようなアプローチは複雑で大きな苦しみを伴う心理的な課題に対して無力であることが多いと主張する。なぜなら積義の正確さの追求には、煩わしい問題を避ける傾向があり、なかなか治癒に向かない鬱病者や、自己嫌悪感にさいなまれる拒食症者に対して、単純で原則的な答えしか提示できず、結局何も解決しないというサイクルが繰り返されてきたと語る。

本書の核心を成すのは、「聖書は誤りのない神の言葉である」と告白する福音主義の神学の立場から展開される神学的人間論である。聖書は心理カウンセラーに対し、十分に適切な枠組みを提供しており、カウンセリングモデルは、聖書と相反しないだけでなく、聖書から出現し、聖書と一致していなくてはならないとCrabbは主張する。人間は神の姿に創造されており、他者との関係性を求める

存在である。人間らしく生きる上で、他者との関係性を築くことは必要不可欠であるが、罪によって歪められた人間にとつては、同時にそれが心の痛みや苦しみを生む原因となる。心理的課題の根本的な解決は、悔い改めを通して得る、キリストとの関係性の回復にある。しかし「罪を悔い改めなさい」「キリストを信じなさい」と語ることで、またそれを確信することで、人々の心の問題が消失するというわけではない。聖書の原則に立って、もう一度自らの人生の旅路を、そして自らの心の奥底を正直に深く見つめ直す作業が必要不可欠であり、神は人間に、そのような能力を与えてくださっている。しかし人は生まれながらにして罪人であり、わからない事柄を避けて通り、安易な解決の方法を求めてしまう。それはクリスチャンであつても同様である。したがってクリスチャン・カウンセラーの役割と

は、カウンセリングの対象者が自らの人生の旅路を、そして自らの心の奥底を正直に深く見つめ直す作業に寄り添うことである。心の奥底を深く見つめ直すとは、キリストに信頼し、よりキリストに近づこうとする作業でもある。

本書はクリスチャンの心理カウンセリングにおいて聖書の言葉を重要視する者に対し、ひとつの有効なアプローチを提供するものである。読者には、クリスチャン人口の多い米国で書かれた本書の方法論を、未信者を対象とする日本でのミニストリーの中でどう用いるのかという問いを念頭に読むことを勧めたい。またCrabbは、「器質的な機能的障 碍」を例外として扱うが、心理的問題における精神的要因と物質的要因の境界線の引き方の困難さを改めて思わされた。

(おかむら・なおき 東京基督教大学大学院神学研究科教授)
(A5判変型・三〇二頁・本体一八〇〇円＋税・ヨベル)

パウロ書簡が平易に解説された 手頃な信仰増進の良書

〈評者〉 申鉉錫

パウロの言葉 100選 河合裕志



パウロの言葉100選
河合裕志著

河合裕志牧師は、牧師としての使命を御教会に於いては、十二分に成し遂げられた牧師である。

今度『パウロの言葉100選』を上梓された。著者は牧会の激務の中から、寸暇を惜しんで聖書を熟読され、その御言葉の真骨頂を的確に解釈されて、読者に伝えていく。評者はまず『パウロの言葉100選』を評する前に、一言述べなければならぬ。著者は本書を上梓する前に、『イエスの言葉100選』（二〇一三年初版）と『続イエスの言葉100選』（二〇一六年初版）を上梓している。評者は上記二巻を愛読し、大いなる恵みを得ている。ところで主イエスの平易な説教の解釈は元より、難解（第二巻）だと称される御言葉をも、読者が理解出来るようにと、人々の良く使う平易な言葉を使って解釈している。このような心遣いが『パウロの言葉100選』にも使われている。パウ

ロ使徒の書簡には、たまに難解な部分もあるものの、ローマ書、コリント前後書、ガラテヤ書などに見られる難解な箇所も、著者は丁寧に分かり易く解説している。特にローマの信徒への手紙の中で述べられている「信仰義認」の教理も初信者に分かり易く解説している。

さて『パウロの言葉100選』においては、主人公であるパウロ使徒の回心の詳細を知らなければならぬ。この100選では、パウロ使徒の回心（使徒言行録九章、新共同訳）を踏まえて説明している。回心前のサウロ（後パウロ）は、熱心なユダヤ教徒であり、キリスト教徒の敵であった。著者は、「パウロは熱心なファリサイ派のユダヤ教徒としてこの偽りの新興宗教を許せなかつた」と。なお著者は『パウロの言葉100選』一六―一七頁において、パウロの回心の記録を詳細に述べている。パウロは回心後、

キリスト者の敵ではなく、正真正銘のキリスト者になった。

さて本書は、ローマ書一章より一六章、コリント前書の一章より一六章、コリント後書の一三章、ガラテヤ書六章までの聖句を殆ど欠落なく解説している。まずこの手紙の聖句は大文字で書かれていて、目にすぐ付き易い。一句一句の解説を読んで行くうちに、アツと言う間に手紙全体を読み終えた感動が胸に満たされる。

ところで著者河合裕志牧師は、初信者であられるキリスト者や、未信者の方たちのために、平素良く使われている平易な言葉で解説しておられる。先生は優れた神学者である。先生は日本基督教団新横浜教会の主任牧師でいらっしゃる。毎週主日礼拝では、教会暦に従って講解説教を通して信徒の信仰の向上を導いておられる。著者の先生

が、『100選』の末尾に次のように記しておられる。

「本書は私が今仕えている新横浜教会での説教を出来るだけ平易に書いたものです。まだ教会に来ていない人々にもパウロという人物に親近感をもってもらえれば幸いです。」『パウロの言葉100選』は持ち歩く上で手頃であり、信仰増進の良書であり、未信者の皆様にとつては、キリスト教を知る上で、又とない手引書であるので、謹んで御紹介する。折しも今はコロナ・パンデミック時代である。全世界の人々が苦難に喘いでいる。一刻でも早い終息を願って神に祈る。

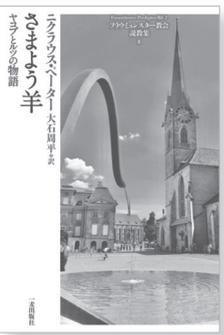
（しん・ひょんそく）在日基督教協会名譽牧師、八街グレイス教会担任牧師

（四六判・二二〇頁・本体一五〇〇円＋税・発売元＝日本キリスト教団出版局）



さまよう羊

ヤコブとルツの物語
フラミュンスター教会説教集 II
ニクラウス・ペーター
Niklaus Peter
大石周平*訳



さまよう羊
ニクラウス・ペーター 大石周平*訳
フラミュンスターの物語

きょうだいとの和解への道に
突き動かされた夢みる詐欺師
ヤコブ。しなやかに、かつた
たかに生きる寄留の未亡人
ルツとナオミ。さまよう羊に
約束された神の祝福のものが
たり。私たちがふだん語り合
う言葉で説き明かされる。

四六判
定価【本体 1,600 + 税】円
ISBN978-4-86325-127-4



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zeninkan_syoten_0530@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fcqwks524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中延町2-2 榎ヶ丘センタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アパコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbdo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www7.biglobe.jp/~yohatara-cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshala.coccan.jp/	nagoya-seibunshara@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東1ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkihan.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masajama_1007/mexim	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環西門字跡777 沖縄キリスト教館内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

既刊案内 (2020年10月~11月) (定価はすべて本体価格+税)

編・著・訳者	書名	判型	頁	本体価格	版元	発行日
勝村 弘也	今さら聞けない!?キリスト教 — 旧約聖書編	A 5	230	1,700	教文館	10/30
加藤 常昭	加藤常昭説教全集35 新約聖書書簡の説教1	四六	430	3,700	〃	10/30
林久子 文 水野源三 詩 小林 恵 写真	悲しみよありがとう — まばたきの詩人 兄・ 水野源三の贈り物	A 5 変	80	1,200	日本キリスト 教団出版局	10/15
カール・バルト著 天野 有、宮田光雄訳	教義学要綱 ハンディ版	小 B 6	366	2,000	新教出版社	10/23
カール・バルト著 宇野 元 訳	ク リ ス マ ス	小 B 6	130	1,400	〃	10/23
越川 弘英 編	新版・教会暦による説教集 クリスマスへの旅路	四六	232	1,800	キリスト新聞社	10/20
栗田 英昭	聖 霊 と 靈 性 — 心の深みで	A 5	236	3,800	一麦出版社	10/1
金子 晴勇	キリスト教思想史の諸時代I — ヨーロッパ精神の源流	新書	264	1,200	ヨ ベ ル	10/26
西岡義行責任編集	平和をつくり出す神の宣教 — 現場から問われる神学	A 5	264	1,800	〃	10/31
山口 希生	「神の王国」を求めて — 近代以降の研究史	四六	256	1,700	〃	10/31
H・キュンク著 福田 誠二 訳	キ リ ス ト 教 — 本質と歴史	A 5	1232	8,800	教文館	11/25
A. E. マクグラス著 矢内義顕 他 訳	宗教改革の知的な諸起源	A 5	376	4,800	〃	11/30
大嶋 裕香	絵本へのとびら	四六 変	128	1,000	〃	11/30
片柳 弘史	やさしさの贈り物 — 日々へ寄り添う言葉366	A 6	390	900	〃	11/30
サリー・マクフェイグ著 山下 章子 訳	ケ ノ シ ス	A 5	398	4,000	新教出版社	11/24
ジャン・カルヴァン著 堀江 知己 訳	創 世 記 II — カルヴァン旧約聖書注解	A 5	398	4,500	〃	11/25
富坂キリスト 教センター 編	日韓キリスト教関係史資料III — 1945-2010	A 5	1115	15,000	〃	11/25
久保田 浩、 鶴岡賀雄 他 編著	越境する宗教史上巻 — 宗教史学論叢 25	A 5	480	5,000	リ ト ン	11/16
川中 仁 編	旧約聖書の物語解釈	四六	167	1,500	〃	11/26
長田 栄一	旧約聖書の世界	四六	376	1,800	ヨ ベ ル	11/20
大井 満責任編集	2020 ケズイック・ コンベンション説教集 神の愛に満たされて	四六	176	1,300	〃	11/30

福音と世界

2021年2月号

特集 惑星の蜂起

寄稿者 高祖岩三郎、白石嘉治、中西淳貴

田崎英明、上原 ぎすえ、早助よう子

書評 デヴィッド・クレバー「アルシット・ジョブ」(岡部耕典) / 好評連載 霊性のエコロジ―あるいはアニマルマテリア(村澤眞保昌)、福音のフラグメント(有住航) I Say a Little Prayer 開かれる世界(栗田隆子)、教父学入門(土井健司)、第二テモテ書(辻学) ほか

A5判・本体600円・〒70円
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。
新教出版社 TEL: 03-3260-6148
Email: sales@shinkyoy-pb.com

編集室から

今年是一件もありませんが、昨年は新年会にいくつか出かけました。人づきあいが苦手な私でも、いざ集まれないとなると多少は出かけたくなるものです。つくづく人は群れて生きるものだと思います。

趣味仲間の新年会に出かけた時は、私がクリスチャンだと知るとキリスト教に関する質問がたくさん飛んできました。毎日祈るものなのか。祈る時にはどう祈るのか。毎週礼拝には行くのか。カトリックとプロテスタントはどう違うのか。教皇フランシスコをどう思うか。みなさんの質問にずいぶん長く答え続けました。

とりわけ印象的だったのは「なぜクリスチャンの方はあんなに清い心の持ち主なのでしょう」という質問です。い

予告

本のひろば
2021年3月号

本・批評と紹介

(巻頭エッセイ)「娘たちの心を育んだ絵本たち」
篠田真紀、(書評)エリザベス・シフトン著「平
静の祈り―ラインホルド・ニーバーとその時
代」、J・カルヴァン著「旧約聖書註解 創世記
II」他

お詫びと訂正 本誌二〇二一年二月号一八頁下段九行目の大澤香氏のルビ(おおさわかおり)は(おおざわかおり)の誤りでした。お詫びして訂正します。

いやや少なくとも私は清くないですけどね……読者のみなさんだったらどうお答えになるでしょう。キリスト教にそれだけ関心があるのか、それとも、クリスチャンの存在がそれほど稀少なだけか。きつと両方でしょう。

日本には一パーセントもクリスチャンがいらないと言われる続けています。それなりに関心を持つ人がいるにもかかわらずクリスチャン人口が増えるどころか減っているならば、情報発信の仕方を考え直す必要がありそうです。

失敗を恐れて何もしない。何もできない。教会に限ったことではないように思います。清い心を持っているかどうかはべつにして、あえて一步を踏み出す勇氣をもって新しい一年を歩みたいものです。その歩みを支えるような書籍を、「本のひろば」でご紹介できることを願っています。

(はくた)

ジーザス・イン・デイズ・ニールランド

ポストモダンの宗教、消費主義、テクノロジ

デイヴィッド・ライアン「著」／大畑凜、小泉空、芳賀達彦、渡辺翔平「訳」

1月25日

世俗化論の想定に反して多様な宗教実践が開花しているポストモダン社会。監視社会論の泰斗がその分析から宗教の未来を探究した「キリスト教社会学」の新古典。 ◆四六判・本体3500円

カール・バルト研究 絶対的逆説を指さす神学

宇都宮輝夫著

聖書解釈学という切り口から読むと見えてくるもの、弁証法やアナログアを通して浮かび上がるバルトの福音理解など、半世紀に及ぶ研究の総決算。 ◆A5判・本体3600円

ケノーシス

サリー・マクフェイグ著／山下章子訳

大量消費時代と気候変動危機における祝福された生き方

大反響

自己を空しくするという生き方。エコフェミニスト神学を力強く牽引してきた著者の、生前最後となった渾身の書。ヴェイユ、デイラ、社会の外的変革と霊性の内的深化とを結びつけた先達の生き方に学び、危機の時代の新たな倫理と死生観を探る。 ◆A5判・本体4000円

創世記Ⅱ カルヴァン旧約聖書註解

ジャン・カルヴァン著／堀江知己訳（ほりえ氏は日本基督教団前橋中部教会牧師）

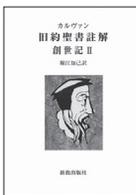
本巻は24章以下（イサクからヨセフまで）を扱う。宗教改革者の釈義の真髄を伝える創世記註解、36年ぶりの邦訳完結。なお、Ⅰの初版を持つ読者や愛書家のために、函入上製本を限定100部制作します。専門書店にご注文下さい。

◆A5判・並製・本体4500円／上製函入・本体6000円

既刊 創世記Ⅰ〈オンデマンド版〉

渡辺信夫訳

◆A5判・並製・本体4600円



教義学要綱【ハンディ版】

カール・バルト著、天野有・宮田光雄訳

大好評

戦後間もないボン大学で、敗戦に打ちひしがれるドイツの学生たちに語られた、使徒信条に基づく教義学の入門講義。バルト神学の巨大な世界を凝縮して示すのみならず、あらゆる人々に神学の魅力を存分に伝える名著を、最新の研究に基づく新訳で贈る。

◆小B6判・本体2000円



『信徒の友』記事に書き下ろしを加えて書籍化、信仰生活(再)入門シリーズ



信仰生活ガイド 《全5巻》 第4回 配本

教会をつくる 古屋治雄 編

教会の本質や使命、役割と聖礼典、教会生活における喜びと慰め、教会を担うための祈祷会、献金、役員会、招聘などを取り上げる。 ◆四六判 並製・128頁・1,430円

シリーズ案内

- 『主の祈り』1,430円
- 『使徒信条』1,430円
- 『十戒』1,430円
- 『信じる生き方』2021年2月刊行予定

注解書購入 応援キャンペーン

2021 (キャンペーン期間)
3/31(水)まで



詳細はホームページをご覧ください。
<https://bp-uccj.jp/news/n37979.html>

キリスト教専門書店限定

キャンペーン対象注解書全70点から、合計20,000円(税別)以上お買い上げで、ご購入総額の20%相当の対象注解書をお選びいただいて進呈!

対象
注解
書

- ・VTJ 旧約聖書注解 (既刊4巻)
- ・NTJ 新約聖書注解 (既刊3巻)
- ・現代聖書注解 (全44巻)
 - *現代聖書注解「マタイによる福音書」「ペトロの手紙1、2」「ヤコブの手紙」「ユダの手紙」をオンデマンド化!(並製・函なし)
- ・ニューセンチュリー聖書注解 (既刊11巻)
- ・新共同訳 旧約聖書・続編注解 (全3巻)
 - *I巻は函なしにつき10%割引販売 (在庫限り)
- ・新共同訳 新約聖書注解 (全2巻)
 - *II巻は函汚れ品につき10%割引販売 (在庫限り)
- ・新共同訳 旧約聖書略解
- ・新共同訳 新約聖書略解
- ・注解 ローマの信徒への手紙 (C.E.B.クランフィールド 著、山内眞訳)



発行所 〒163-0814 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3311-6160 1651-1679
発行人 金子和人 編集人 寺田彰 印刷所 印刷所(佛平河工業社) 電話03-3311-6160 1651-6170
発売所 日本キリスト教書販売株式会社

定価七八円(税抜七一円) (¥63円)
一年分一三〇〇円(送料共)